

# 「未来の担い手」を育成するプログラムを始めます

平成31年4月25日  
京都府教育委員会

京都府教育委員会では、今年度より、**京都を中心に活躍している企業・大学と連携して**、子ども達が社会に出たときに直面するような「**答えのない問い**」に**長期的・継続的に取り組む「課題解決型学習(Project Based Learning)**」を行う、「**未来の担い手育成プログラム**」を実施します。

## <プログラムの趣旨・内容>

- ・教科の授業は大事、でもそれだけでは…
- ・社会の変化に対応できる学びが必要なのでは…
- ・学びって様々な活動で繋がりが深まっていくのでは…

### <企業・大学>

企業・大学が直面しているリアルな課題の提示と、研究校に対する出前授業による課題解決に向けたサポート

## 中学校 × 企業・大学

- ・府内5校を、3年間の学びを見据えた「未来の担い手育成プログラム研究校」として指定
- ・長期的・継続的に企業・大学からの課題に取り組む「きょうと明日へのチャレンジコンテスト」開催

### <中学校>

企業・大学が提示する「答えのない問い」を解決できるような力を付けさせるための、課題解決型学習を通じた継続的・持続的な授業改善

- ・認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ
- ・将来に渡って学び続ける力を養う
- ・3年間を見通して子ども達の力を伸ばす

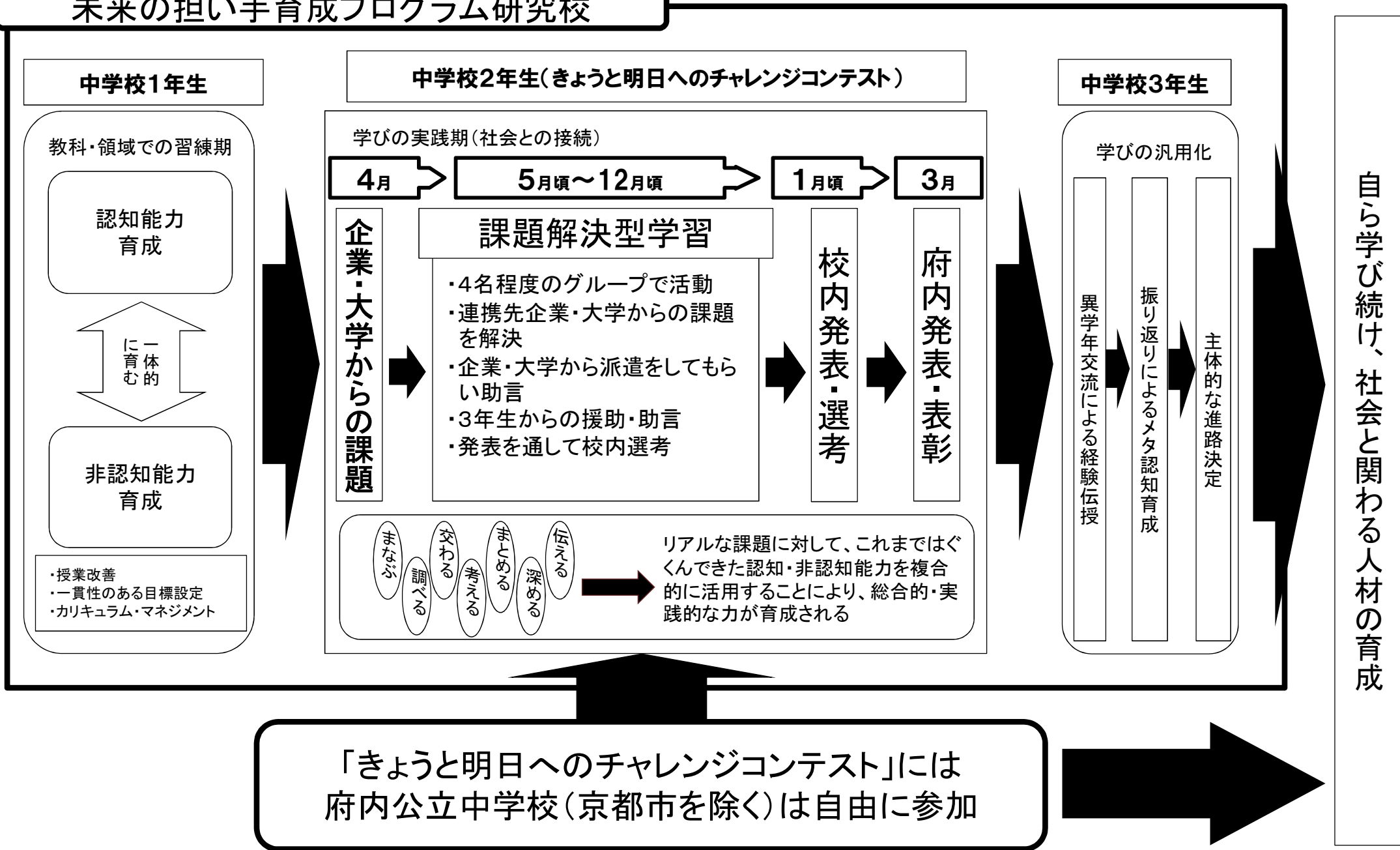
## <研究校、連携企業・大学及び課題>

| 研究校        | 連携企業・大学                | 課題   |
|------------|------------------------|--|
| 京丹後市立弥栄中学校 | 株式会社 丹後王国              | 丹後地方の特徴を生かした地域活性化策も含めて、多くの人が訪れるための方法とは           |
| 綾部市立東綾中学校  | グンゼ株式会社                | 10年後の時代に合った「こちよい」インナーウェアを創造してください                |
| 京丹波町立瑞穂中学校 | 株式会社 美濃吉               | 新しい和食の在り方を創造して、和食文化を広めてください                      |
| 向日市立寺戸中学校  | 国立大学法人京都大学<br>iPS細胞研究所 | 誰もが安心してiPS細胞を用いた治療を受けられるようになるためには、どのようなことが必要でしょう |
| 宇治市立黄檗中学校  | 株式会社 祇園辻利              | 世界中に日本茶を普及させるにはどうすればよいでしょう                       |

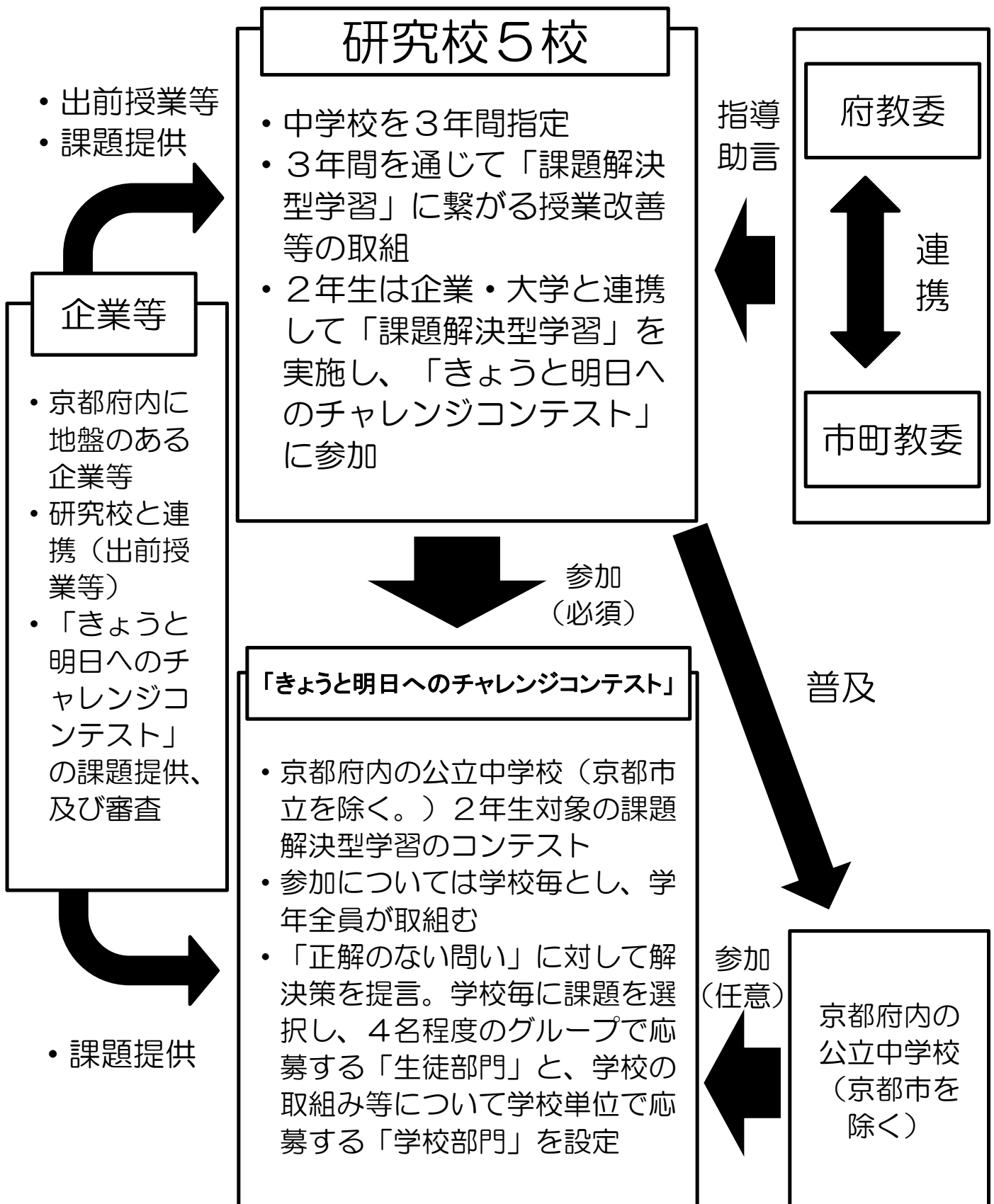
|    |              |
|----|--------------|
| 担当 | 学校教育課指導第一担当  |
| 電話 | 075-414-5833 |

# 未来の担い手育成プログラムの流れ

## 未来の担い手育成プログラム研究校



# 未来の担い手育成プログラム (事業の全体図)



※学校部門については令和2年度より開催

## 第1回 きょうと明日へのチャレンジコンテスト課題一覧

| 課題番号 | 企業等／課題   | 課題について  |
|------|--|---|
| 1    | 株式会社 祇園辻利  | 祇園辻利では、日本や世界に、宇治茶を含む日本茶の良さを伝え、より一層普及させたいと考えています。日本では例えばお店で食事をすれば無料でお茶が出てくるくらい生活に密着している一方で、実際に急須でお茶を淹れたりする機会は減っています。お茶の効能や、急須でお茶を淹れて飲むことの良さ、といったものだけでなく、急須で淹れるお茶をはじめ、お茶そのものを飲まなくなった原因なども含めて皆さんの力で考え、どのようにすれば日本茶の良さが日本、世界に伝わるか提案してください。         |
|      | 世界中に日本茶を普及させるにはどうすればよいでしょう                       |   |
| 2    | 株式会社 丹後王国  | 丹後王国は、丹後地方にある道の駅ですが、幹線道路に面しているわけではないのでロケーションとしては厳しいものがあります。お客様(観光に訪れる方や地元の方)に足を運んでいただくためには、丹後地方にしかない資源(ヒト・モノ・コト)を繋いでその魅力を発信していくことが大切だと考えています。丹後地方内外の視点からその魅力を探し、どのようなことをすれば多くの方が丹後や丹後王国を訪れるようになってくださるか考えてください。                                |
|      | 丹後地方の特徴を生かした地域活性策も含めて、多くの人を訪れるための方法とは            |   |
| 3    | 株式会社 美濃吉   | 海外では和食ブームで、日本食レストランも多くあります。しかし、日本では和食という敷居が高く思われるのか和食の良さが伝わっていないことも多くあります。美濃吉ではこれまで和食そのものを大切にしながらも、海外での普及活動や現代に合った和食のカタチを考えてきました。そこで、皆さんには「自分たちにとっての和食とは何か?」ということを追及した上で、現代に受け入れられる和食や和食文化を創造し、どのように広めれば良いかを考えてください。                          |
|      | 新しい和食の在り方を創造して、和食文化を広めてください                      |   |
| 4    | ゲンゼ株式会社  | ゲンゼでは、「こちよさ」を追求したインナーウェアを開発しています。この「こちよさ」は素材による肌触りだけでなく、形やサイズ、着る人の年代、性別、使う場面などによっても変わってきますし、もちろん価格もその要素になります。皆さんが社会に出て活躍しているであろう10年後の社会や生活の様子を想像して、年代等ターゲットを絞った上でその時代にあった「こちよい」インナーウェアとはどのようなものかを考えてください。                                     |
|      | 10年後の時代に合った「こちよい」インナーウェアを創造してください                |   |
| 5    | 国立大学法人京都大学iPS細胞研究所                               | iPS細胞を用いた新たな治療法の実現が期待されています。患者さんの血液から作ったiPS細胞で新しい細胞を作製し、本人の身体に移植すれば免疫拒絶の心配がありません。ただ、膨大な費用と時間がかかってしまいます。患者さん以外の誰から、どのように血液をもらえば、この課題を克服できるのでしょうか?考えられる解決策について、研究者、血液提供者、患者さんなどの立場からメリットとデメリットを検討し、どうすれば誰もが安心してiPS細胞を用いた治療を受けられるようになるか提案してください。 |
|      | 誰もが安心してiPS細胞を用いた治療を受けられるようになるためには、どのようなことが必要でしょう |   |